

木田小だより



すずかけ



No. 10
令和5年3月
文責（校長・教頭）

卒業おめでとう 旅立ちの時です

3月14日、卒業証書授与式を無事挙行することが出来ました。当日は朝から快晴で、卒業生の門出を祝うには最高の天気でした。次々と登校してくる卒業生もすがすがしい顔で教室に向かっていきました。学校には1年間様々な行事がありますが、卒業式はやはり別格です。卒業生に保護者の皆さん、そして教職員が揃った体育館。満ちわたる凜として張り詰めた空気。何度経験しても忘れがたい大切な時です。今年も卒業生一人一人に卒業証書を手渡せることに無上の喜びを感じました。

私事ですが、今年の卒業生は私が見送る最後の卒業生になりました。新卒1年目で小学6年生を送り出して以来、中学校勤務が主だったので、3年担任として多くの卒業生を見送ってきました。勤務した中学校では、式場ではクラス代表への授与。一人一人には教室で担任からの授与でした。様々な思い出がよみがえり、涙でぐちゃぐちゃになりながら授与したものです。関わりが深ければ深いほど思いも深くなるものです。

今年の卒業生との思い出も数多くあります。式辞の中でも話しましたが、宿泊学習でキャンドルを見つめていた風景は、今でも記憶が鮮明によみがえります。また、修学旅行では夜熟睡させてもらいました。誰一人夜中に体調を崩す人がいなかった経験は初めてでした。一人一人の体調管理が素晴らしかったのでしょうか。忘れられない思い出の一つです。

このような行事の思い出以上に心に残っているのが、何気ない日常の風景です。休み時間に体育館や教室で話をしたこと。中には校長室を訪れ、話をしていく人もいました。人なつっこく素直な卒業生だったので楽しい思い出です。たくさんの思い出をありがとう。



なにより、マスクを取った素顔の皆さんと卒業式を迎え、一人一人の晴れやかな顔が見られたことに感謝したいです。かつての日常が少しずつ戻ってきました。



保護者の皆さんの方を向いて「別れの歌」を歌う卒業生です。一人一人が胸を張り、6年間の思いを込めて歌いました。彼らの思いは届いたでしょうか。

木田小学校は彼らの心のふるさとです。幼少期の思いを胸に、頑張れ卒業生。

6年生を送る会 5年生大活躍でした

今年もコロナの影響を心配しながら2/22に送る会を開催しました。ここで活躍したのが5年生です。高学年とはいえ、学校内では6年生がいるので、リーダーシップを発揮してまわりを引っ張っていく経験はなかなか積むことが出来ません。今回が初めての経験でした。



第1部は、各教室で縦割り班ごとにほっこりとする時を過ごしました。下級生からのプレゼントを照れながら受け取る6年生の姿が印象的でした。

今年の第2部は、5年生と6年生が体育館に集まり、他の学年は教室に同時中継されるテレビを見ながらの開催でした。体育館を運営した5年生の皆さんは、6年生が喜ぶようアイデアいっぱいのシナリオを考え、見



事演じきりました。

6年生から5年生へと児童会旗も引き渡され、木田小の歴史は脈々とつながっていきました。

卒業前の奉仕作業



今年の卒業生も、卒業前に奉仕作業を計画してくれました。長い年月で古くなった校舎ですが、子供たちにとっては大変愛着のある校舎です。



左の写真は、南校舎階段手すりのペンキ塗り作業の様子です。

右の写真は、6年間の国語の学習に出てくる登場人物が、すずかけの木のまわりに集まってくるという壁画です。味気ないベニヤ版がこうなりました。渡り廊下にありますのでご覧ください。



見守り隊感謝式&ジブチからの訪問

今年も1年間御世話になった見守り隊の方に感謝の気持ちを表す場を設けました。先日アフリカのジブチ共和国からも視察があり、学校と地域の連携について教えて欲しいと依頼されました。

その時にも、地域の方々が子供たちのためにボランティアで見守りをしていていることを紹介し、学校や子供たちが地域にとって何より大切な宝物であるということを感じてもらいました。大変興味深げに話を聞いてくれました。



今年度、海外からのお客さんは3度目なので子供たちは自然に近づいて話しかけていまし

た。少し国際感覚が身についてきたようです。

お知らせ

福井市では学校の老朽化が進行する中、計画的に校舎の大規模改修工事を実施しています。木田小学校と明倫中学校も今後改修工事が入る予定です。木田小学校は、北校舎が令和5年度に設計業務に入り、6年度に工事となるようです。きれいな校舎への改修までの間、グラウンドを含め学校利用については制限がかかってきます。木田小学校の改修工事後に明倫中学校の工事にかかるので、今後数年間は工事が続くことになると思います。詳細については、今後順次お知らせ出来ると思いますので、ご理解願います。